



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

新型コロナウイルス

【当法人業務執行理事】

東京医科大学

植木 彬夫 [医師]

この巻頭言は2020年3月3日に執筆している。この巻頭言は4月号なのでMANO a MANOに掲載されるときには新型コロナの状況は変わっているかもしれない。願わくば感染拡大の封じ込めが効を奏して終息に向かっていることを祈りたい。

私たちの活動もコロナ騒ぎにより全て中止され、3月13日～14日開催予定であった金沢における糖尿病学の進歩は延期となり、多くの研修会や講演会も中止や延期に追いやられた。また法人やその委員会、世話人会なども対面で行うことは避け、メールを用いたテレ会議となった。このような中、糖尿病患者と日々向き合う我々に対し、日本糖尿病学会は2020年2月18日に「新型コロナウイルス(COVID-19)への対応について(Q&A)」の中で糖尿病患者へのコロナに対するQ&Aと医療者向けのQ&Aを発表した。医療者向けの(Q)糖尿病患者で新型コロナウイルス感染症への罹患が疑われる場合、診療で留意する点はありますか？に対し、(A)現時点では、糖尿病は他の基礎疾患と同じく、重症化のリスクの一つである可能性が指摘されている。ただし、CDCのガイダンス(2020年2月12日付け)では糖尿病に加えて、高齢、呼吸器疾患、がん罹患、心不全、脳血管疾患、腎疾患、肝疾患、免疫不全状態、妊娠と幅広い疾患を重症化するリスクの可能性ありとされており、当初の症状が軽微であっても、これら基礎疾患がある場合には肺炎への進行が起こる可能性を念頭に起き、治療にあたるのが望ましいとされている。

「糖質コルチコイドの使用は、ウイルス感染を遷延させる可能性が報告されており、慢性閉塞性呼吸器疾患(COPD)の増悪への対処など、使用意義が十分ある場合を除き、避けるべきです。使用する場合には、糖尿病患者の場合は特に血糖値のモニターと治療に配慮すべきでしょう」と示した。すなわち糖尿病患者では、COVID-19感染があった場合には重症化し易い、また糖質コルチコイドはウイルス感染の遷延化や血糖値を悪化させるので肺炎によりCOPD疾患が増悪するとき以外は使用を控えるべきであると、従来のウイルス感染症と変わらない対応することを示していた。一方、具体的対応策としては日本環境感染学会の「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応について」「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド第2版」(http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide2.pdf)が詳しい。

<治療と予防について>

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対して、現在、有効性が証明された治療法はない。ただしHIV薬、抗インフルエンザ薬、エボラ出血熱の治療薬の効果が検証されれば治療薬となるであろう。しかし現時点の治療の基本は対症療法であり、肺炎を認めた場合には必要に応じて輸液や酸素吸入、あるいは昇圧剤などで全身管理を行う。肺炎や重症例でのステロイド使用の有効性を認めるエビデンスはないので勧められない。COVID-19に対するワクチンは現時点では無いと報告されている。

感染力は強いが致死率は中国で2%、その他の国では更に低いとされている。このCOVID-19は社会活動を制限し、経済効果も阻害している。学校は3月2日から多くの地域で休校に入っている。この巻頭言を読まれる頃には、終息への光が見えてきていることを再度祈りたい。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 食品交換表の同一表内の交換で正しいのはどれか、2つ選べ。(答えは3ページにあります。)

1. 「春雨」を食べたので、「ごはん」を減らした
2. 「みたらし団子」を食べたので、「ごはん」を減らした
3. 「アボカド」を食べたので、「マヨネーズ」を使うのはやめた
4. 「干し柿」を食べたので、「バナナ」はやめた
5. 「プロセスチーズ」を食べたので、「牛乳」を減らした



報告

第20回西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

日時:令和元年12月21日(土)

場所:立川相互病院 講堂



松田先生



植木先生

令和2年12月21日(土曜日)立川相互病院講堂にて第20回西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会が開催され、糖尿病治療に携わる医師・コメディカル総勢45名の先生方にご出席いただきました。

症例検討会では、症例1を青梅市立総合病院 内分泌糖尿病内科 医長 松田祐輔先生より『糖尿病と骨粗鬆症』と題し、糖尿病患者では血糖コントロール不良で骨折リスクが上昇することに触れられ、DM患者での血糖管理と骨粗鬆症の管理を症例を通してガイドライン、試験を交えてご紹介いただきました。症例2を東京医科大学 内科 名誉教授 植木彬夫先生より『超高齢者に於ける糖尿病内科治療の選択』と題し、今後さらなる増加が見込まれる

後期高齢者の糖尿病管理を症例を通して紹介いただき、糖尿病治療だけではなく認知症リスクや社会資源の活用にも触れていただきました。特別講演においては、帝京大学ちば総合医療センター 第3内科学講座(内分泌代謝) 教授 井上大輔先生より、『糖尿病に合併する骨粗鬆症とそのマネジメント』と題しまして、具体的な症例やデータの提示により、糖尿病合併骨粗鬆症患者の栄養管理の重要性や、骨粗鬆症による骨折と認知症、心血管イベントとの関連性に関して、大変わかりやすくかつ詳細にお話いただきました。ご講演後にご参加された先生方からのご質問も多くいただき、ご盛況のうちに研究会を終演いたしました。

報告

第6回西多摩・南多摩糖尿病カンファレンス

日時:令和2年1月16日(木)

場所:京王プラザホテル八王子

[当法人会員] 多摩南部地域病院 本城 聡 [医師]

第6回西多摩・南多摩糖尿病カンファレンスが京王プラザホテル八王子で開催されました。Current Topicsでは東海大学八王子病院消化器内科の小嶋清一郎准教授をお招きし、「糖尿病とNASH/NAFLD」と題し、糖尿病とNASH/NAFLDに関する教育講演を頂きました。診断のプロトコール、糖尿病との深い関係、減量治療の重要性、そして最新の米国でのガイドラインも紹介されました。ピオグリタゾンが現状では米国で第一選択とみなされており、SGLT2阻害薬についてはまだ十分なエビデンスは得られていないものの有望であることをご教示頂きました。

基調講演では青梅市立総合病院の足立淳一郎先生、そして日野市立病院の佐藤眞理子先生にご講演頂きました。足立淳一郎先生にはSGLT2阻害薬投与中に発生した正常血糖ケトアシドーシスの症例提示をして頂きました。SGLT2阻害薬投与中にしばしば報告される副作用ですが、今後の診療にあたり、一般医科として必ず周知されるべき副作用と考えられました。また佐藤眞理子先生より腎臓内科医としての立場から、SGLT2阻害薬の投与方法についてご講演頂きました。糖尿病内科医とはまた違った視点からの考察を頂くことができ、聞いていて大変参考になるお話しでありました。最後の閉会の挨拶を東京医科大学八王子医療センターの大野敦兼任准教授より頂き、閉会となりました。

報告

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク
第20回 西東京糖尿病療養指導士認定試験

日時:令和2年2月16日(日)

場所:東京経済大学



令和2年2月16日(日)東京経済大学において、『第20回西東京糖尿病療養指導士認定試験』が行われました。今回は74人が受験し、69人が見事に合格されました。合格者には3月に合格通知を発送しております。西東京糖尿病療養指導士としての門出を祝し、認定式を執り行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症への対応及び感染症予防を考慮し、中止とさせていただくこととなりました。何卒ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。





第57回関東甲信越地方会

令和2年1月18日(土)

パシフィコ横浜

[当法人業務執行理事]

東京医科大学

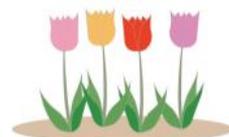
植木 彬夫 [医師]

令和2年1月18日、パシフィコ横浜において第57回関東甲信越地方会が行われました。私にとっては初めて自分が関連する報告やシンポジウムなどが無く、一日中興味ある演題やセッションを聴くことができた一日でした。JDSの地方会は基本的には症例報告が多く、なかでも圧倒的にSGLT2阻害薬関係の演題が多く報告されていました。メディカルスタッフセッションではチーム医療の実際などの報告があり、施設、地域において様々な工夫がなされていることが報告され興味深いものでした。

今回、私が最も期待したセッションは「臨床研究の進め方とその成果」と題された教育セミナーです。このうち、「元女子医科大学糖尿病学教授平田幸正先生が、詳細な臨床症状からいかにしてインスリン自己免疫疾患を発見したか」を報告された内潟安子先生の講演と、「多施設共同研究の方法と倫理審査の問題点」を述べられた横浜国立大学の寺内康夫先生の講演は、私にとって多くの知識と示唆とを得るものでした。

突然低血糖で倒れてしまう患者を診て、インスリンノーマや他の代謝疾患などを慎重に検索しても見つからないが、血中インスリン濃度は健常人の100倍以上もあります。この患者のケースカンファレンスでは隠れてインスリンを注射しているのではないかと疑われましたが、平田先生は患者の食事や症状の詳細な聞き取りからインスリン自己抗体がインスリンと結合しインスリン効果が少なくなり高血糖になるが、何らかの理由でインスリンと抗体の結合が分離しフリーのインスリンが低血糖を生じさせるインスリン自己免疫症候群(平田病)の概念を提唱しました。その特徴は、(1) インスリン注射歴がないにもかかわらず重症の低血糖発作で発見される、(2) 患者血中には大量のインスリン(IRI)が存在する、(3) インスリン自己抗体が存在し、血中インスリンのほとんどと結合していることです。その後、インスリン自己免疫症候群は特定のHLAと強く相関することが明らかになり、(4) HLA-DR4(DRB1*0406)と強い相関をもつことも特徴のひとつであること。インスリン自己免疫症候群は日本を中心とした極東アジアに多く発症するという特徴があるが、これはHLA-DR4(DRB1*0406)がその進化過程から極東アジア、特に日本人に高頻度に見られることから説明できると報告されました。たった一人の低血糖症状からいかにして平田病を見つけその病態生理、遺伝子解析までおこなった過程は私たちに多くの示唆を与えました。

寺内先生の他施設用同研究のありかたについては、今後倫理審査の問題が大きな課題となること、前向き介入試験は我々臨床の場ではかなり困難になるであろうことを述べられていました。しかし今後後ろ向きコホート研究などの手法をつかうことによりRCTに劣らない実臨床のデータがこれまで以上に報告されるようになるであろうと言うことを述べられていました。同じセッションで新潟大学の曾根先生は今後電子カルテ(HER)情報、レセプト情報などから得られるビッグデータが個人個人の診断や適切な治療を導いてくれるAIが開発されていけらうと述べられていました。いずれにしろ、日常診療にリサーチマインドをもって臨むことの重要性、日々診療の記録が集まり従来のランダム化比較試験(RCT)以上に実臨床に即した研究が行われてきていることを熱く語っていました。



読んで
単位を
獲得しよう

答え 1, 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

食品交換表は、多く含有している栄養素によって食品を4群6表と調味料に分類し、食品のエネルギー80Kcalを1単位と定め、その重量を記載しています。同一表の同一単位の食品は類似の栄養素で構成されているため、交換摂取することができます。

1. ○ どちらも表1の食品です。
2. × みたらし団子は嗜好食品に分類されます。嗜好食品は砂糖を多く含むので、血糖値や中性脂肪が高くなりやすいなど、原則として、糖尿病には好ましくない食品とされています。
3. ○ どちらも表5の食品です。
4. × 果物の缶詰、干し果物は嗜好食品になります。生果物よりビタミンC含有量が少なく、缶詰には砂糖が多く含まれています。
5. × プロセスチーズは含まれる栄養素から、食品交換表では表3に含まれ、牛乳は表4です。表4は、カルシウムや良質のたんぱく質を多く含み、炭水化物のうち乳糖を含む食品です。

研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第67回例会

 申込不要

テーマ：『糖尿病療養指導のネクストステージ～改めて見直す生活習慣～』

開催日：2020年6月23日（火）19：20～21：00

場所：国分寺市立いずみホール Aホール（JR「西国分寺駅」下車 徒歩2分）

参加費：当法人会員 無料 / 一般 2,000円

参加費
無料

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

 西東京CDEの会 第19回例会

 申込必要

テーマ：『「新しい糖尿病診療ガイドライン」を解説します！～療養指導はどう変わる？～』

開催日：2020年6月27日（土）15：30～19：00

場所：府中市立中央文化センター ひばりホール（京王線「府中駅」下車 徒歩5分）

参加費：当法人会員 2,000円 / 一般 4,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申込みください。（6/17締切）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

 2020年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

 申込必要

第17回 西東京教育看護研修会

第5回 西東京臨床検査研修会

第17回 西東京病態栄養研修会

第5回 西東京運動療法研修会

第17回 西東京薬剤研修会

フリーコース

※教育看護研修会につきましては、本会場もしくはサテライト会場のどちらかを選択いただけます。

開催日：2020年7月12日（日）9：25～16：55（開場9：00）

場所：北里大学薬学部 白金キャンパス

（JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」下車 徒歩13分）

参加費：申込時期によって価格が変わります。

早割[3/10～5/24] 6,000円 / 通常[5/25～6/30] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「2020年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」よりお申し込みください。（6/30締切）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位申請中

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：申請中

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は<第1群>は、自分の職種である研修会に参加した場合のみ取得できます。また<第1群>と<第2群>の単位はどちらか一方のみ認められます。

※フリーコースで取得できる単位は、西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位(10単位)のみとなります。



事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00 / 13:00~16:00にお電話くださいようお願いいたします。

会員各位

年会費の改定について

日頃より当法人の事業活動につきまして、多大のご尽力を賜り誠にありがとうございます。

昨今の製薬企業を含む医療環境の変化に際し、当法人としても公的社会活動を継続するために、財務状況の見直しをする必要に迫られております。

そのため、会報誌1月号にてお伝えいたしましたとおり、社員総会の承認を得て2020年度から「年会費の改定」をさせていただくことになりました。

1. 年会費額

(旧) 3,000円 → (新) 5,000円

2. 実施時期

2020年度年会費(2020年1月1日)から

3. 納入開始

2020年05月01日(金)からマイページに掲載

皆様には、負担増となりますが、当法人が諸活動をさらに充実させ、会員や社会に対する一層の貢献ができるよう、今回の年会費値上げにご理解をいただくとともに、ご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワーク
代表理事 貴田岡 正史

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



4月号を編集している3月上旬の時点でもCOVID-19はまだまだ落ち着いていません。研修会や講演会は軒並み中止や延期、学校は休校、様々な面から経済への影響も出ています。花見の宴会も自粛です。この号が発行される頃には終息が見えてきているのでしょうか？糖尿病患者さんはコロナに限らず感染症予防が大事ですが、皆様もくれぐれもお気をつけくださいませ。(広報委員 杉山 徹)



一般社団法人

臨床糖尿病支援ネットワーク

Clinical Assistance of Diabetes Network